

第744回教育委員会
報告第4号参考資料

令和4年度
全国学力・学習状況調査
結果報告

令和4年9月
むつ市教育委員会 学校教育課

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果

□1 調査の目的

本調査は、文部科学省が学校の設置管理者等の協力を得て実施するものであり、次のことを目的としている。

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

□2 調査の対象学年

国・公・私立学校の小学校第6学年児童、中学校第3学年生徒

□3 調査の内容

(1) 教科に関する調査 【小学校：国語、算数、理科 中学校：国語、数学、理科】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し以下の通りとする。なお、理科は3年に1回の実施である。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 児童生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査
- 学校に対する調査
学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

□4 調査の方式

悉皆調査

□5 調査期日

令和4年 4月19日(火)

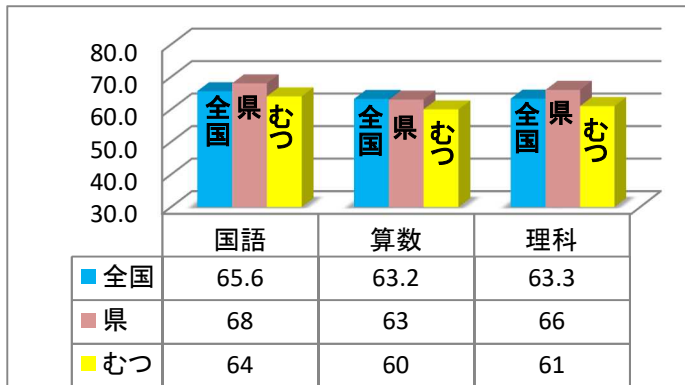
□6 調査を実施した児童生徒数

	児童数(割合)	生徒数(割合)
全国(公立)	965,761人(98.7%)	892,585人(96.1%)
全国(国立)	6,097人(0.6%)	9,640人(1.0%)
全国(私立)	6,253人(0.7%)	26,284人(2.9%)
青森県(公立)	8,314人	8,393人
むつ市	425人	369人

□7 学力調査の結果

※報道等による順位競争の過熱化を防ぐため、平成29年度から、都道府県・市町村の数値は整数値での発表となっている。

■①令和4年度 小学校6年生



国語、算数、理科

全国平均、県平均を下回る。

☆令和3年度結果

	国語	算数
全国	64.7	70.2
青森県	69	71
むつ市	69	71

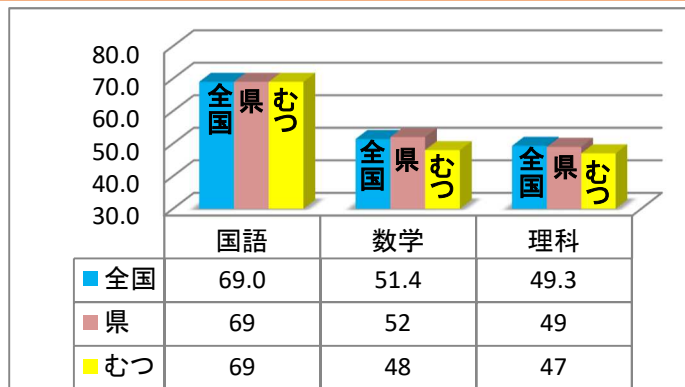
* 全国平均に対する到達率

	国語	算数	理科
全国	100	100	100
県	103.7	99.7	104.3
むつ	97.6	94.9	96.4

◇令和3年度青森県学習状況調査結果

	国語	算数	理科
青森県	62	50	57
むつ市	58	47	54

■②令和4年度 中学校3年生



国語

全国平均・県平均と同値である。

数学、理科

全国平均、県平均を下回る。

☆令和3年度結果

	国語	数学
全国	64.6	57.2
青森県	66	56
むつ市	67	57

* 全国平均に対する到達率

	国語	算数	理科
全国	100	100	100
県	100	101.2	99.4
むつ	100	93.4	95.3

◇令和3年度青森県学習状況調査結果

	国語	数学	理科
青森県	66	40	47
むつ市	63	38	43

◇令和元年度 小学校6年生の結果

	国語	算数
全国	63.8	66.6
青森県	70	67
むつ市	66	63

☆→前年度の小学校6年生及び中学校3年生との異集団比較

◇→前年度の青森県学習状況調査及び小学校6年生時の全国学力・学習状況調査との同一集団比較

【全体考察】

- 中学校3年生において、3年前の小学校6年生時の結果との同一集団比較では、数学の結果に変化は見られなかったが、国語は県平均と同値となるなど向上が見られた。
- 小学校6年生、中学校3年生ともに国語と理科における「短答式問題」に対する正答率は全国平均を上回った。

- ◆中学校国語を除くすべての教科で全国平均、県平均を下回り、特に、小学校では国語と理科、中学校では数学において県平均を4ポイント以上下回った。問題を解決するために必要な知識及び技能が身に付いていないことが原因の一つと考えられる。
- ◆小学校6年生において、前年度の青森県学習状況調査との同一集団比較では、国語と算数の差に変化は見られなかったが、理科は、-3ポイントから-5ポイントと落ち込みが見られた。
- ◆中学校3年生において、前年度の青森県学習状況調査との同一集団比較では、国語と理科は向上したが、数学は-2ポイントから-4ポイントと落ち込みが見られた。
- ◆小学校6年生、中学校3年生ともにすべての教科で「記述式問題」に対する正答率が全国平均、県平均をともに下回った。自分の考えを表現できるように、授業の中に、自分の考えを説明したり記述したりする場面を設定する必要がある。

1) 小学校 内容・領域、評価の観点ごとの正答率

教科	学習指導要領の内容及び評価の観点	むつ市 正答率	青森県 との比較	全国との 比較	青森県 (公立) 正答率	全国 (公立) 正答率	
国 語	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	73.7	-1.7	4.7	75.4	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項					
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	69.3	-12.1	-8.6	81.4	77.9
	思考力、判断 力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	60.0	-5.9	-6.2	65.9	66.2
		B 書くこと	47.5	-2.9	-1.0	50.4	48.5
		C 読むこと	60.7	-3.9	-5.9	64.6	66.6
	評価の観点	知識・技能	72.9	-3.5	2.4	76.4	70.5
思考・判断・表現		57.2	-4.2	-4.8	61.4	62.0	

教科	学習指導要領の内容及び評価の観点	むつ市 正答率	青森県 との比較	全国との 比較	青森県 (公立) 正答率	全国 (公立) 正答率	
算 数	A 数と計算	68.5	-2.4	-1.3	70.9	69.8	
	B 図形	59.3	-4.7	-4.7	64.0	64.0	
	C 測定						
	C 変化と関係	47.9	-2.9	-3.4	50.8	51.3	
	D データの活用	63.1	-4.9	-5.6	68.0	68.7	
	評価の観点	知識・技能	65.4	-2.9	-2.8	68.3	68.2
		思考・判断・表現	52.9	-3.8	-3.8	56.7	56.7

教科	学習指導要領の内容及び評価の観点	むつ市 正答率	青森県 との比較	全国との 比較	青森県 (公立) 正答率	全国 (公立) 正答率	
理 科	「エネルギー」を柱とする領域	47.5	-5.1	-4.1	52.6	51.6	
	「粒子」を柱とする領域	59.5	-5.8	-0.9	65.3	60.4	
	「生命」を柱とする領域	74.1	-3.2	-0.9	77.3	75.0	
	「地球」を柱とする領域	61.8	-6.2	-2.8	68.0	64.6	
	評価の観点	知識・技能	61.8	-5.8	-0.7	67.6	62.5
		思考・判断・表現	60.2	-4.7	-3.5	64.9	63.7

【考察】

◆すべての教科において「内容・領域」及び「評価の観点」で県平均を下回った。また、「評価の観点」においては、国語と算数は「思考・判断・表現」に、理科は「知識・技能」に課題が見られた。

2) 中学校 内容・領域、評価の観点ごとの正答率

教科	学習指導要領の内容及び評価の観点	むつ市 正答率	青森県 との比較	全国との 比較	青森県 (公立) 正答率	全国 (公立) 正答率	
国 語	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.0	0.3	1.8	73.7	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	44.8	-5.5	-1.7	50.3	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	68.4	-0.3	-1.8	68.7	70.2
	思考力、判断 力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	63.5	0.7	-0.4	62.8	63.9
		B 書くこと	44.8	-5.5	-1.7	50.3	46.5
		C 読むこと	67.0	0.9	-0.9	66.1	67.9
	評価の観点	知識・技能	69.4	-0.5	0.4	69.9	69.0
		思考・判断・表現	61.5	-0.3	-0.8	61.8	62.3

教科	学習指導要領の内容及び評価の観点	むつ市 正答率	青森県 との比較	全国との 比較	青森県 (公立) 正答率	全国 (公立) 正答率	
数	A 数と式	57.5	-3.1	0.1	60.6	57.4	
	B 図形	38.8	-3.9	-4.8	42.7	43.6	
	C 関数	38.8	-3.4	-4.8	42.2	43.6	
	D データの活用	51.8	-2.9	-5.3	54.7	57.1	
学 科	評価の観点	知識・技能	57.8	-3.3	-2.1	61.1	59.9
		思考・判断・表現	30.9	-3.4	-5.3	34.3	36.2

教科	学習指導要領の内容及び評価の観点	むつ市 正答率	青森県 との比較	全国との 比較	青森県 (公立) 正答率	全国 (公立) 正答率
理 科	「エネルギー」を柱とする領域	40.9	-0.6	-1.0	41.5	41.9
	「粒子」を柱とする領域	51.2	-0.6	0.3	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	53.4	-3.4	-4.5	56.8	57.9
	「地球」を柱とする領域	42.3	-1.2	-2.0	43.5	44.3
	評価の観点	知識・技能	46.6	-1.0	0.5	47.6
思考・判断・表現		47.6	-2.1	-3.4	49.7	51.0

【考察】

○国語では、「内容・領域」及び「評価の観点」において、県平均とほぼ同値となった。

◆数学と理科において「内容・領域」及び「評価の観点」で県平均を下回った。また、「評価の観点」においては、数学は「知識・技能」及び「思考・判断・表現」に、理科は「思考・判断・表現」に課題が見られた。

引き続き、「知識・技能」の確かな習得と「思考・判断・表現」の育成をバランスよく指導することが求められる。

□8 質問紙調査の結果（本市の実態）

※むつ市の児童生徒の「8割」が肯定的な回答をした質問項目

領 域	○…小・中共通 ㊦…小学校 ㊧…中学校
基本的生活習慣等 質問6問中	○朝食を毎日食べている。 ○毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きている。
挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等 質問12問中	㊧自分には、よいところがあると思う。 ○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。 ㊦将来の夢や目標をもっている。 ○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。 ○人が困っているときは、進んで助けている。 ○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。 ○人の役に立つ人間になりたいと思う。 ○学校に行くのは楽しいと思う。 ○友達と協力するのは楽しいと思う。
学習習慣、学習環境等 質問8問中	㊦学校からの課題で分からないことがあったときは家族に聞く。 ㊧学校からの課題で分からないことがあったときは自分で調べる。
地域や社会に関わる活動の状況等 質問5問中	㊧放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごしている。
ICTを活用した学習状況 質問6問中	○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況 質問7問中	㊦5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。 ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 ㊦学習した内容について、分かった点やよく分からない点を見直し、次の学習につなげることができている。
総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳 質問4問中	○学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。 ○学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。 ○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
学習に対する興味関心や授業の理解度等 質問 国4問中 算・数8問中 理9問中	○国語、算数・数学、理科の授業は大切だと思う。 ○国語の授業の内容はよく分かる。 ○国語、算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。 ㊦算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。 ○算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。 ㊦理科の勉強は好きだ。 ㊦理科の授業の内容はよく分かる。 ○理科の授業で、観察や実験の結果を基に、どのようなことが分かったのか考えたり考察したりしている。

【全体考察】

＜基本的な生活習慣等＞

- 毎朝同じくらいの時刻に起き、朝食を食べるなど、規則正しいリズムで生活している。
- ◆平日、テレビゲームをしたり携帯電話やスマートフォンで動画を視聴したりする時間は、中学校3年生は全国平均よりも短い、小学校6年生は長くなっている。携帯電話やスマートフォン、パソコンの使い方について、家の人と約束したことを守っている児童生徒の人数は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均と比べて低くなっている。

＜挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等＞

- 先生が、自分のよいところを認めてくれていると思う児童生徒が多く、全国平均よりも高い。先生方が児童生徒としっかり関わり、自己肯定感の高まりにつながっている。
- 将来の夢や目標をもっている小学校6年生は8割を超えた。中学校3年生は8割に届いていないが、県平均、全国平均よりは高くなっている。
- ほとんどの児童生徒が、人が困っているときに進んで助け、いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている。
- ◆困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した児童生徒は7割以下であり、いつでも相談できる環境づくりが求められる。

＜学習習慣、学習環境等＞

- 家で自分で計画を立てて勉強をしている割合と、休日の勉強時間については、小学校6年生、中学校3年生ともに県平均、全国平均と比べて高くなっており、学習する習慣は身に付いていると考えられる。今後は、学習の仕方や内容について、支援していく必要がある。

＜ICTを活用した学習状況＞

- ◆多くの児童生徒が、学習の中でパソコンやタブレットなどのICT機器を使うことは勉強の役に立つと思っているが、実際の使用については、小学校、中学校ともに県平均、全国平均と比べて低くなっている。積極的な活用に向けた支援を今後も継続しながら、効果的な場面での使用についても、研修会等で先生方に周知していく必要がある。

＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

- 多くの児童生徒が、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると捉えている。コロナ禍での授業となるが、日頃から「話し合い活動」を取り入れるなど、工夫した授業づくりを行っている成果と考えられる。
- ◆授業の中で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した児童生徒の割合が、県平均、全国平均と比べて低くなっている。

＜総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳＞

- 学級活動における学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した児童生徒は、県平均、全国平均と比べて高くなっており、学級をよりよくしようという意識をもって学校生活を送っていると考えられる。
- 道徳の授業において、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童生徒は、県平均、全国平均と比べて高くなっており、多くの学校で「考え議論する道徳」を意識して授業を展開していると考えられる。

＜学習に対する興味関心や授業の理解度等＞

- 多くの児童生徒は、どの教科の授業も大切だと考えており、授業の内容も分かると回答している。また、将来、社会に出たときに役に立つと考えている。
- ◆算数・数学において、授業の内容がよく分かると回答した児童生徒の割合は、県平均、全国平均と比べて低くなっている。今後は、基礎的な知識・技能の習得と合わせ、学習したことを普段の生活でどのように活用できるかを児童生徒に考えさせることも必要である。

□ 9 学力と相関関係があった質問項目

質問紙の回答と学力の相関関係を比較した際に、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が、そうでない回答をした児童生徒の平均正答率よりも全教科10ポイント以上高かった内容である。

■ 小学校6年生・中学校3年生 共通

- 項目1 毎日、同じくらいの時刻に起きている。
- 項目38 前年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
- 項目39 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
- 項目51 国語の授業の内容はよく分かる。
- 項目53 算数・数学の勉強は好きだ。
- 項目54 算数・数学の勉強は大切だと思う。
- 項目55 算数・数学の授業の内容はよく分かる。
- 項目58 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。
- 項目60 数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている。
- 項目68 理科の授業で、観察や実験の結果を基に考察している。

■ 小学校6年生 20ポイント以上 *中学校3年生は該当する質問項目はなし

- 項目2 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。
- 項目8 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
- 項目10 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。
- 項目40 前年までに受けた授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
- 項目43 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- 項目44 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- 項目46 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- 項目48 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

□ 10 今後、重点的に取り組んでいくこと

- 児童生徒の学習意欲を高め、「知識・技能」と「活用する力」を一体的に伸ばす。
- 各教科等の学習で、筋道立てて考え、自分の考えを分かりやすく説明したり書いたりする力を一層高める。
- 家で学習する習慣を継続させ、学習の仕方や方法などに対して支援していく。
- 目的に応じて、効果的にICT機器を使った授業を展開していく。
- 読解力を高めるための「聞く力」と「読む力」を高める指導に努める。

□ 11 学校教育課としての指導や支援、対策

- 各教科におけるむつ市の児童生徒の傾向を踏まえ、要請訪問等で、知識・技能の習得と活用する力の育成を図る具体的な指導法について指導・助言する。
- 学力向上アクションプランの達成に向けた指導資料をもとに、授業改善について指導・助言する。
- デジタル教材や活用型問題集「ドリームワーク」の活用を一層推進する。
- タブレット端末の効果的な活用について、講座や研修会等で一層推進する。

ねらいに応じた授業展開の工夫

★知識・技能の習得をねらいとした授業のポイント

「学力が高い」とは

- 習得した知識・技能について、問題を解いたり、人とコミュニケーションを取ったりするときに、「頭の中から出して使う」ことができること。
- 事象を見て、違うところ（同じところ）に着目してアプローチできること。
- 「取り出しやすい知識・技能、使える知識・技能」として長期記憶すること。

「長期記憶」させるには

- 何度も繰り返すこと。
- 知識・技能を使う必然性のある場面設定を行うこと。
- 知識・技能を使える機会を設けること。
- 習得のコツを教えること（語呂合わせなど）。

出典：

平成25年度研修主任研修講座
野辺地町立若葉小学校 校長 新渡幹夫先生（当時）
講義 「指導力向上と学力向上の校内研修」より

授業展開の工夫

問題練習の時間が足りなくなりがちではないですか？知識・技能の習得をねらいとする授業では、問題練習のために必要な時間を見通して、それまでの学習過程を構築することも必要です。

問題練習をする時間を確実に確保しましょう。

段階	学習活動とポイント
導入	<p>○学習問題（素材）の提示・学習課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> * 知識・技能の習得がねらいであるため、時間をかけすぎずに、シンプルに進めましょう。 * 本時のねらいとする知識・技能を使う必然性のある場面になっているか、問題を吟味しましょう。
展開	<p>○見通し・自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> * 自力解決の場面で、指導が必要な児童生徒を見つけましょう。ねらいに到達していない児童生徒を、教師の指導によって、本時若しくは単元の中で、「到達している」状態まで高めることが重要です。 * 自力解決の場面で、ねらいとする知識・技能が十分身につけている（いわゆるA）と見とれた児童生徒には、「使える機会」を設定しましょう。 <p style="text-align: center;">💡 タブレットドリルの活用 チャレンジ問題（知識・技能を駆使する問題）</p> <p>○話し合い・練り合い</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「正しい知識」「正しい技能」を身に付けさせることを第一とし、問題を解けない児童生徒には、「考えさせる」ことに時間を割くより、「教える」ことも必要です。「考えさせる」のは、「思考力・判断力・表現力等の育成」をねらいとする授業で、時間をかけてじっくり行いましょう。 * 話し合いに時間をかけすぎないようにし、問題練習の時間を十分に確保しましょう。
終末	<p>○問題練習</p> <ul style="list-style-type: none"> * 知識・技能の習得の状況を把握するためには次のことに留意することが大切です。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題量が適切か。 ・ 児童生徒が問題に取り組む時間が確保されているか。 ・ 同じようなレベルの問題ばかりになっていないか。 * 問題量の確保のため、タブレットドリルを活用しましょう。 * 分からない児童生徒にどう分らせるか、「習得のコツ」を探し出すことも「教材研究」の一側面です。教員同士で効果のある「習得のコツ」は共有しましょう。 <p>※「習得のコツ」の一例</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">漢字練習における「そらがき」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ペア学習における「問題の出し合い」</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自作の歴史年表づくり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">平易な数値による問題場面の読み替え</div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">💡 「繰り返し」と「機会の確保」を</p> <p>○まとめ・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> * 本時で学習したことを「まとめる」活動も、習得の度合いを測る一つの方法です。 * 「振り返り」では、「どうやったら身についたか（問題を解くことができたか）」という視点を持たせることで、一人一人の児童生徒が得意とする「習得の方法」を把握することにもつながります。

★思考力・判断力・表現力等の育成をねらいとした授業のポイント

問題解決型学習の中で

段階	学習活動とポイント
導入	<p>○学習問題（素材）の提示・学習課題の設定</p> <p>必要感を持たせる問題提示</p> <ul style="list-style-type: none"> * 既習の知識・技能を駆使すると解決することはできるが、よりよい方法が見付けられそうな問題 * 既習の知識・技能の組み合わせで解決することができる問題 * 児童生徒に「なぜ」「どうして」と疑問を持たせる問題 <p>必要感に応じた課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> * 学習活動の目的がわかる課題設定を！ * 終末の「まとめ」との関連を踏まえた課題設定を！ <p><例>社会科の課題 中学校社会科の地理的分野で様々な気候帯の人々のくらしの様子を学習する授業において、次のような課題設定をします。</p> <p>ねらい 冷帯に暮らす人々の生活の工夫を気候と関連づけて説明することができる。</p> <p>課題 冷帯に暮らす人々の生活の様子を読み取ろう。 この課題だと、「資料から読み取ること」自体が学習の目的になってしまい、「何を」「どのように」することができればよいのかが曖昧です。</p> <p>一方、次の課題設定はどうでしょう。</p> <p>課題 冷帯に暮らす人々は、気候に合わせてどのような生活の工夫をしているのだろうか。 このような課題を設定することで、「資料から読み取ること」に目的が生まれます。そして読み取ったことと実際の暮らしの様子を関連付けることで、「生活の工夫」が明らかになります。この「関連付け」が思考力・判断力・表現力が発揮されている一つの姿と言えます。また、まとめる時に、課題に合わせて、「冷帯に暮らす人々は～」と書き出しを揃えることも考えられます。そうすることで、「課題」に対する「答え」としてまとめが記述されることになり、「ねらい」と「課題」と「まとめ」の整合性が取られます。</p>
展開	<p>○見通し・自力解決</p> <p>個の学びを重視した見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> * 見通しを持たせることの意味を明確に持ちましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・方法の見通し→「練り合い」に生かすため。 ・答えの見通し・予想・仮説→「自力解決」に生かすため。 * 「個の学び」を大切にするため、本時で一人一人の児童生徒に考えさせたいことを、見通しの場面で詳しく取り上げることは避けましょう。 <p>自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> * 最終的に「個の学び」につなげるためには、「個の自力解決」が必要です。 * 「答えの見通し」を生かして、自分の考え方が妥当かどうかを確かめながら自力解決を進めさせましょう。 <p>○話し合い・練り合い</p> <ul style="list-style-type: none"> * 話し合い・練り合いの目的をはっきりさせて児童生徒に伝えましょう。 「自分の考えを広げるため」「グループの考えをまとめるため」「よりよい考え方を選ぶため」など * 対話的な学びの取組 <ul style="list-style-type: none"> 「自分は～と考えて問題を解きました。」 →見通し 「それは、○○と考えたからです。」 →根拠 「すると～であることが分かりました。」 →結論 「はじめの自分の考えと比べて～」 →考察 * 「個」→「共有（ペア・グループ・全体など）」→「個」 <p>様々な学習形態で、「どこが同じなのか」「どこが違うのか」「なぜ違う（同じ）のか」を「伝える」、「聞き取る」活動にも取り組ましましょう。</p> <p>このつながりが大切です。見通しに基づき、自分の考え方や解答の妥当性を自分なりに検討することにも取り組ませましょう。検討した内容が「振り返り」にも生かされます。</p>
終末	<p>○まとめ・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「まとめ」は「何を学んだか（学習課題に対する答え）」、「振り返り」は「どう学んだか」。 * ぜひ学びの価値付けを→「学んだ内容」「学び方」

